Journal of Sociology & Social Work, 2024;No.3, p 33-38

資　　料

スクールソーシャルワーカーの研究動向
－高校生を支援するスクールソーシャルワーカーを対象とした国内文献調査－

小玉　幸助[※1]・大竹　伸治[※2]・高濱　壮斗[※3]

要旨：スクールソーシャルワーカーの研究は進展してきているが、高校生を対象としたスクールソーシャルワーカー研究は進展してきているのだろうか。高等学校は義務教育である小中学校と教育制度が異なり、原級留置や留年などの制度が設けられている。また、高等学校においてもいじめ、不登校、児童虐待、精神障害などの学校不適応などを抱える生徒がいる。本研究は高校生を支援するスクールソーシャルワーカーを対象とし、学校不適応などの問題を抱えた高校生を支援するための基礎資料とすることを目的に国内文献調査を試みた。結果、高校生を支援するスクールソーシャルワーカーを対象とした文献数は少なく、研究は発展段階にあった。一方、高等学校ではスクールソーシャルワーカーの人材不足が続くなか、学校不適応を抱えた高校生や家庭に対応することが困難な状況となり、地域格差が生じると考えられる。

キーワード：スクールソーシャルワーカー、高校生、国内文献調査、学校精神保健、学校不適応

Ⅰ．はじめに

スクールソーシャルワーカー（以下SSW）の主な業務は、問題を抱える児童生徒が置かれた環境への働きかけ、関係機関とのネットワークの構築、連携・調整、または保護者、教職員等に対する支援・相談・情報提供などがある[1)]。

SSWは社会福祉士及び精神保健福祉士等の有資格者が任用されており、いじめ、不登校、児童虐待、発達障害等に関する問題、心身の健康・保健、ヤングケアラーなどの問題を抱えた児童生徒を対象に支援しているが、高校生を対象としたSSWの研究は、SSWの支援や活用、その実践と、SSWの支援の効果検討といった進展はしてきているのだろうか。高等学校は義務教育である小学校、中学校と教育制度が異なり、原級留置や留年、休学、退学制度が設けられており、進学や就職の決定などのライフイベントを経験する重要な時期でもある[注1)]。

SSWの先行研究について、社会福祉士または精神保健福祉士の有資格者群と資格を所有しない群を対象にt検定を用いて比較検討した研

※1　石巻専修大学人間学部人間教育学科
※2　東北文化学園大学医療福祉学部保健福祉学科
※3　東北文化学園大学現代社会学部現代社会学科

究では、有資格者群は連携・協働の面で資格を所有しない群より有意に効果を示した（駒田・山野 2015）[2)]。ネグレクト児童の支援について、小学校の教職員を対象にアンケート調査を行い、SSW の役割を考察した調査では、多重比較を用いてスクールカウンセラー（以下 SC）と SSW の他職種連携の有用性を比較した結果では、SC は p ＝0.135、SSW は p ＝0.000であり、小学校の教員と SC または SSW との他職種連携では、SSW と他職種連携に有意差があることを明らかにした（奥村 2018）[3)]。

先行研究では自治体や小学校を対象とした調査であったが、高等学校（以下高校）に配置されている SSW の支援にも有用性があるのだろうか。高校においても精神疾患や発達障害、不登校、いじめ問題等を抱えた高校生がいる。また、青年期となった高校生に対して SSW の支援に効果があるのか。高校生を対象とした SSW の支援に有用性があるのならば、精神疾患、発達障害など学校精神保健領域に関わる問題、または、いじめや不登校など学校問題を抱えた高校生の原級留置や退学、不本意な転学などを予防することが可能になるのではないか[注2)]。

Ⅱ．目的

本研究は学校不適応等の問題を抱えた高校生を支援するための基礎資料とすることを目的に調査を行った。

Ⅲ．研究方法

研究方法は CiNii Research、または NDL ONLINE を利用し国内文献調査を試みた。文献については2018年４月から2023年３月までの５年間を対象とした。検索用語は“スクールソーシャルワーカー”and“高校”、“スクールソーシャルワーカー”and“高校生”である。本研究は SSW を対象としているため、スクールソーシャルワークの用語は除外している。また、学校不適応等の問題を抱えた高校生を支援する SSW を対象としているため、小学校、中学校の SSW に関連する研究も除外した。

Ⅳ．結果

（１）国内文献調査の結果

国内文献調査を試みた結果、CiNii Research では“スクールソーシャルワーカー”and“高校”が７件、“スクールソーシャルワーカー”and“高校生”が１件であった。NDL ONLINE では“スクールソーシャルワーカー”and“高校”が５件、“スクールソーシャルワーカー”and“高校生”が０件であった。CiNii Research、NDL ONLINE 内で重複した文献は５件あった。

（２）抽出した文献について

文献を精査した結果、CiNii Research は７件、NDL ONLINE が５件であった。抽出した文献として、SSW の「不登校」「チーム学校」「中途退学」「SSW の活用と現状、課題」「定時制高校における外国人への指導・支援」「高卒就労支援」「ヤングケアラー」に関する内容だった（表１）。

表１　抽出した論文

著　者	年　度	論文名	概　要
小玉幸助、大竹伸治、森谷就慶、若林真衣子	2018	スクールソーシャルワークに関する経済分析：不登校児童・生徒を対象とした経済学的分析：スクールソーシャルワーカーの必要性について	SSW は小中学校、高校で導入され、効果検証も行われてきているが、SSW を活用していく中で、経済分析が行われておらず、経済効果を明らかにしていない。研究では１都１道７県を対象に SSW の経済効果を明らかにするため、経済学的視点からシミュレーション分析を試みた。結果、SSW が介入した経済効果は25億円であることがわかった。

著　者	年　度	論文名	概　要
高橋寛人	2019	高校のスクールソーシャルワーカー	高校のSSWを対象に「チーム学校」で学校経営が変わるのかを論じている。SSWは内部者または外部者として学校に参加するのか。福祉職員であるべきかなど、教育委員会に訪問調査を行い、SSWにもインタビュー調査を実施した。結論、SSWは学校に入って福祉的支援を行うことが求められていると論じている。
小栗貴弘、吉永惠子	2019	高校中退の指示的予防を通した社会的自立の支援　―中退のセーフティーネットを目的とした外部機関との連携―	高校を中退しそうになった生徒への社会的自立の支援事例を通し、指示的予防を効果的に進めるためSCとSSWの連携、SCのアセスメントと学校適応支援、SSWの外部機関との連携による中退のセーフティーネットを整備し、効果的な連携と中退のセーフティーネットについて考察した。支援事例の結果では、制度面に精通したSSWと支援内容に精通したSCが連携することで、より効果を発揮すると考察している。
斉藤俊晃	2020	定時制高校における「外国につながる生徒」への指導・支援	「外国につながる生徒」を国籍問わず、両親または片親が外国出身者であると定義している。定時制高校では、「外国につながる生徒」が増加傾向にあり、生徒の課題も多様化している。日常的に教職員やSSW、SCなどの職員が協働して指導・支援を行っている。研究では、日本語指導や家庭環境などの問題について、勤務校の実践を概観し、成果、課題を明らかにすることを目的に行った。
安原佳子	2021	高校におけるスクールソーシャルワーカーの活用の現状と課題	虐待やいじめ、不登校、貧困問題など課題を抱える子どもが増加している。高校での中退は低学力、意欲低下、児童虐待など様々な原因があり、高校においてもSSWを活用したいという要望が強まっていると推測される。よって、高校におけるSSWの活用に関する現状を把握するため、大阪府立学校を対象に調査を実施した。結果、SSWの人材確保や質の向上が課題として挙げられた。
筒井美紀	2022	高卒就労支援に関する諸課題の整理と検討	高卒就労支援では職業指導・職業紹介、就労支援、企業支援の専門性が必要であり、これは教員の業務範囲を超えている。また、専門職の学校配置には課題がある。SSWなど非常勤職員として雇用する監督者の不案内で適切な業務分担を困難にしている。このような課題を目指す広域自治体事業が進行中で、注目に値すると述べている。
今西良輔	2023	通信制高校におけるヤングケアラーの状況と課題から―スクールソーシャルワーカー実践を通して―	高校の通信制は経済的理由などから全日制に通うことが難しい生徒が進学している。北海道内の高校を対象に調査した結果、不登校経験者が85.8%であり、半数以上が高校の転校を経験していた。なお、通信制高校の生徒は虐待、精神疾患を抱える家族問題なども影響しており、手厚いケアを要する状況と言える。しかし、教育以外の福祉的、心理的な支援を受けたくても受けられないという地域差があると指摘している。

Ⅴ．考察

文献調査を試みた結果、高校生を支援するSSWを対象とした研究は少ないことがわかった。高校では学校医や養護教諭、特別支援教育コーディネーター、SC、SSWなどの専門職が配置されている[注3)]。高校のSSWは義務教育とは異なるアプローチ方法が必要であり、学校内での相談体制や地域連携の整備、SSWの増員と常勤配置の必要性を指摘した（初谷 2016）[4)]。また、高校における特別支援教育の実践として、進路支援を中心に事例研究をした結果では、SSWを常勤で配置し、子どもの相談だけでなく、教育活動の全ての場面で関わっていたと述べている（藤田 2016）[5)]。SSWは相談や関係機関との連携などの業務があるなか、福祉的支援以外に進路支援や全ての教育活動に関わり、教育現場においても業容が拡大してきている。斉藤（2020）の指摘通り、生徒の課題が多様化していることも１つの要因と思われる。また、小栗、吉永（2019）の研究からSCとSSWの連携について効果があると考えられる。さらに、不登校児童生徒に対する支援においても経済効果があることが明らかとなっている。一方、安原（2021）の指摘通り、SSWを活用したいと要望する高校は多いが、人材不足によりSSWを確保するのは困難な状況と推察する。高卒就労支援に関しては、SSWなどの非常勤職員の業務内容について高校の理解がないと活動範囲が制限され、適切な業務を遂行することはできないと考えられる[注4)]。さらに、SSWの専門性について研究をした藤本（2020）は「SSWは福祉についての専門性を有していない人が就いている割合が高い」と指摘している[6)]。なお、ヤングケアラーにおいても地域差があるため、SSWには地域の実態に沿った福祉的支援が求められるであろう。

高校生を支援するSSWの研究では、常勤配置を必要性が指摘される一方で、福祉の専門性を有していない人材などが活用されている。また、業務拡大によりSSWの質の向上が求められているが、このままSSWの人材不足が続く場合、学校不適応の問題に対応することが困難な状況となり、地域格差が生じると考える。

高校においてもSSWが実践する相談、関係機関との連携などの支援は有効と推測している。高校生を支援するSSWを対象とした研究は緒についたばかりである。文献調査した研究からもSSWによる高校生への支援やケアなど有用性を示唆する報告があり、今後も進展していくだろう。だが、養護教諭を対象に精神疾患が疑われる高校生への支援を試みた研究では、養護教諭と医療機関等の関係機関との連携に重要性を示した（有賀 2016、2021）[7) 8)]。養護教諭に関する研究においては、SSWの業務と重複しているが、養護教諭の免許を取得するためのカリキュラムにソーシャルワークに関連した科目は少ない[注5)]。よって、養護教諭が精神疾患や発達障害など学校精神保健領域の問題を抱える生徒、いじめや不登校など学校不適応を抱えた生徒に福祉的支援を実践することは難しいだろう[注6)]。しかし、高校の養護教諭が福祉的支援をしなければいけない実態については、SSWの人材不足が招いた結果と推察している[注7)]。

Ⅵ．結論

本研究では高校生を支援するSSWを対象に国内文献調査を行った。結果、文献数は少なく研究は発展段階にあると推測している。今後の研究課題として、高校を対象にSSWの配置状況と地域差を明らかにするため調査を進めていく。

付記

本研究は日本福祉心理学会第20回大会（オンライン開催）抄録集にて口頭発表したものを論文として加筆修正し、まとめたものである。

脚注

注１）原級留置、休学、退学をする高校生がいる。

注２）いじめなどによる不登校、精神障害（発達障害含む）の発症など学校不適応を抱え、不本意ながら原級留置や休学、退学、転学、退学する高校生を示す。

注３）SSWを配置していない高校もある。

注４）高校側がSSWの業務を理解する必要がある。

注５）養護教諭の養成課程においては、養護に関する科目のなかで社会福祉学、精神保健福祉学、福祉心理学など福祉に関連する科目を履修することはない。

注６）関係機関との連携及び連絡調整、助言、訓練などを福祉的支援と示す。

注７）SSWの人材不足には教育と福祉を学修した者も含める。

引用文献

１）文部科学省 . 令和３年度スクールソーシャルワーカー活用事業実践活動事例集 .2022 https://www.mext.go.jp/content/20221102-mxt_jidou02-000025648-001.pdf 2023年９月19日参照 .

２）駒田安紀 . 山野則子 . 社会福祉士・精神保健福祉士資格所有状況による実践の差の検証 － 効果的スクールソーシャルワーカー配置プログラム構築に向けた全国調査より － . 学校ソーシャルワーク研究2015;10:pp.37-48.

３）奥村賢一 . ネグレクト児童の支援におけるスクールソーシャルワーカーの役割に関する一考察 － 小学校教員を対象としたアンケート調査から － . 福岡県立大学人間社会学部紀要2018；26（2）：pp.175-189.

４）初谷千鶴子 . 高校におけるスクールソーシャルワーク実践から見えてきた課題 . 淑徳大学大学院研究紀要2016；23：pp.113-132.

５）藤田毅 . 高校における特別支援教育の実践と課題：進路支援を中心として . 人間関係研究2016；21（1）：pp.111-118.

６）藤本啓寛 . スクールソーシャルワーカーは福祉専門職なのか？ － 名称独占の職域に生じた二重方略の失敗 － . 早稲田大学大学院教育学研究紀要2020；28：pp.119-129.

７）有賀美恵子 . 精神疾患が疑われる高校生への連携支援における実態と課題 . 日本養護教諭教育学会誌2016；20（1）:pp.53-63.

８）有賀美恵子 . 精神疾患が疑われる高校生に対する養護教諭の支援の工夫 . 日本看護科学会誌2021;41:pp.259-268.

参考文献

１）岩山絵里 . 小倉靖範 . 特別支援学校におけるスクールソーシャルワーカーの活用に向けた予備的検討 － 教員から期待されている役割に関するインタビュー調査から － . 障害者教育・福祉学研究2022；18：pp.1-6.

２）内田宏明 . 児童相談所の業務分析からスクールソーシャルワークの必要性を探る . 長野大学紀要2005；26（4）：pp.343-359.

３）鈴木依子 . 養護教諭が「社会福祉士の知識を活かせてよかった」と思う取り組みについて . 京都女子大学生活福祉学科紀要2022；17：pp.99-103.

４）厨子健一 . わが国におけるスクールソーシャルワーク研究の動向と課題 － 論文タイトルを用いたテキストマイニング － . 教職キャリアセンター紀要2018；3：pp.35-44.

５）根津隆男 . 橋本奈々重 . 生徒指導体制を支える教育相談の理論と方法の検討：「チームとしての学校」を踏まえて . 神戸松蔭女子学院大学研究紀要2022；3：pp.109-124.

６）野田秀孝 . スクールソーシャルワーカーの実際と課題：富山県スクールソーシャルワーカー活用事業を題材に . とやま発達福祉学年報2012；3：pp.35-41.

７）日々眞一 . 社会福祉士を保有するスクールソーシャルワーカーが示す専門性についての一考察 － 山形県の調査をもとに － . 東北公益文科大学総合研究論集2022；42：pp.49-69.

Research Trends of School Social Workers -Domestic Literature Survey on School Social Workers Supporting High School Students-

Kousuke KODAMA, Shinji OOTAKE, Masato TAKAHAMA

Abstract

Research on school social workers is progressing, but is there progress in research on school social workers targeting high school students. High school has a different educational system from elementary and junior high schools, which are compulsory education, and has systems such as detention in the first grade and repeating a grade. Furthermore, even in high schools, there are students who suffer from bullying, refusal to attend school, child abuse, mental disorders, and other maladjustment.This study was conducted on school social workers who support high school students, and we attempted to conduct a literature survey in Japan with the aim of using it as a basic data to support high school students with problems such as school maladjustment. The results showed that the number of literature on school social workers who support high school students was small, and that the study was still in its developmental stage. On the other hand, the continuing shortage of school social workers in upper secondary schools makes it difficult to respond to high school students and families with school maladjustment, and regional disparities are likely to occur.

Key word : School Social Worker, High School Student, Literature Survey in Japan, School Mental Health, School Maladjustment